

論文内容要旨

論文題目 訪問看護ステーションにおける新卒看護師受け入れに必要な体制の構造化

教育・研究領域：安全・管理支援看護学

氏 名： 竹本由香里

【内容要旨】

本研究の目的は、訪問看護ステーションにおける新卒看護師受け入れに必要な体制を構造化することである。

2023 年 11 月から 2024 年 3 月に全国の訪問看護ステーションから層化無作為に抽出した 2,500 施設の管理者を対象として郵送法による無記名自記式質問紙調査を実施した。調査内容は①訪問看護ステーションの属性、②新卒看護師採用実績のある訪問看護ステーションの特徴、③新卒看護師受け入れに必要な体制である。

無効回答を除く 360 部（有効回収率 14.4%）を分析対象とした結果、過去 5 年間に新卒看護師を 1 人以上採用していた訪問看護ステーションは 13.3%であり、規模の大きさが採用に関連していると考えられた。新卒看護師受け入れに必要な体制は、【事業所全体で育成する体制】【具体的な教育方法】【ICT の活用】【技術研修を受け入れる他機関との連携】【公的な助成制度】で構成され、確証的因子分析の結果、モデルの適合度指標は RMSEA=.06、CFI=.92 であり妥当性が示された。

山形大学大学院医学系研究科長 殿

学 位 論 文 審 査 結 果 報 告 書

申請者氏名：竹本由香里

論文題目：訪問看護ステーションにおける新卒看護師受け入れに必要な体制の構造化

審査委員：主審査委員 古瀬みどり



副審査委員 櫻田 香



副審査委員 布施 淳子



審査終了日：令和 7 年 1 月 6 日

【 論 文 審 査 結 果 要 旨 】

「病院完結型」から「地域完結型」の医療への転換、地域包括ケアシステムの推進が、在宅医療を推進し、訪問看護ステーションの数も 2010 年以降の 14 年間で約 3 倍に増加した。これにより、訪問看護に従事する看護師の確保が課題となり、新卒看護師の積極的な採用が提案されるようになった。新卒訪問看護師育成の課題の一つに新卒看護師を受け入れ、育成していくための体制の整備がある。本研究では、新卒訪問看護師の採用を推進するために、訪問看護ステーションにおける新卒看護師受け入れに必要な体制を構造化することを目的としている。全国訪問看護事業協会の正会員リストに記載のある訪問看護ステーションから層化無作為抽出した 2,500 施設の管理者を対象に、新卒看護師受け入れに必要な体制 37 項目の実施状況等の調査を行った（有効回収率 14.4%）。新卒看護師受け入れに必要な体制の構造化には確証的因子分析によりモデルの適合度指標を確認した。過去 5 年間に新卒看護師を採用した訪問看護ステーションは 48 件（13.3%）であった。新卒看護師採用実績のある訪問看護ステーションは、看護職員常勤換算数、1 か月あたりの総訪問件数、利用者数が採用実績のないステーションよりも有意に多かった。新卒看護師の採用には、専門看護師・認定看護師等の資格取得者の在籍、機能強化型訪問看護管理療養費の届け出、看護職以外の有資格者と事務職員等の有資格者以外の職員による教育への関与、インターンシップの実施、看護学実習の受け入れ、今後の新卒看護師採用の意向が関連していた。訪問看護ステーションにおける新卒看護師受け入れに必要な体制の探索的因子分析では、【事業所全体で育成する体制】（ $\alpha = .94$ ）、【具体的な教育方法】（ $\alpha = .86$ ）、【ICT の活用】（ $\alpha = .86$ ）、【技術研修を受け入れる他機関との連携】（ $\alpha = .84$ ）、【公的な助成制度】（ $\alpha = .75$ ）の 5 因子 28 項目が抽出され、確証的因子分析によるモデル適合度の指標は RMSEA = .06、CFI = .92 で妥当性が示された。

本研究について、論文および口頭発表に基づき審査した結果、研究の目的が明確で、方法も妥当であり、結果には新知見が含まれ考察も適切であることから、本研究は学位論文（博士）として相応しいものと評価した。